

トキふれあいプラザの状況について

1 平成27年の繁殖および飼育状況

AO ペア(No35♂×No241♀)

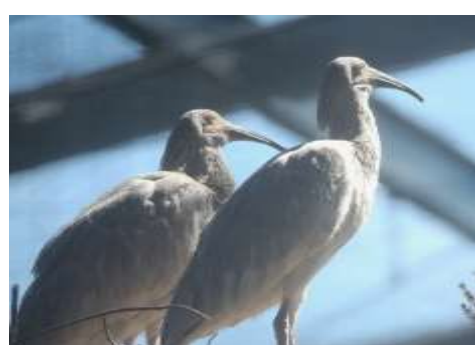
区分	産卵日時	破卵等	ふ化日時	ヒナの状況	
第1クラッチ	第1卵	3月13日 17:49	3/21 破卵		
	第2卵	3月15日 17:08	3/22 破卵		
	第3卵	3月17日 17:39	3/19 破卵		
	第4卵	3月19日 18:32		4月18日 16:41	5月28日、29日 それぞれ1羽が巣立ち
	第5卵	3月22日 15:50		4月20日 14:19	
	第6卵	3月24日 17:22	4/26 および 5/14 未明、それぞれ1個の卵を巢外へ		
	第7卵	3月26日 17:54			



4月29日 親に寄り添って



5月13日 親に餌をねだる



5月24日 巣立ち近し 空を見上げ

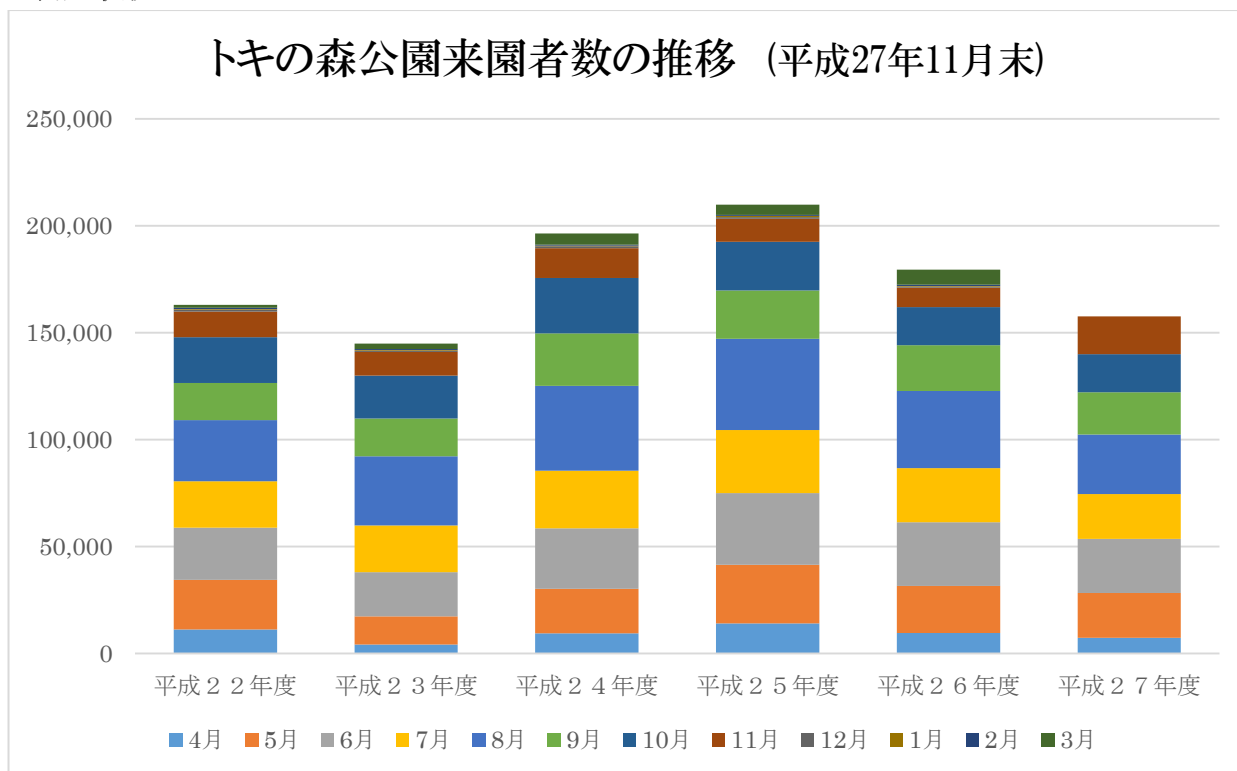
平成27年、繁殖期のトキふれあいプラザにおける飼育形態は、同一ケージ内に1家族5羽(ペア及び前年ふ化きょうだい3羽)が同居する中で繁殖が可能か、試みとして実施した。なお、観察を実施する中で異常が認められた場合は、直ちにトキ保護センターと協議の上対応することとした。その結果、繁殖期を推移する中で、ペアによる若鳥の追廻しが徐々にエスカレートし特に♂によるNo472(つなぐ)への攻撃が頻繁となり、3月22日事故回避のため捕獲、退避ケージへ収容した。

抱卵期は♂♀とも抱卵に集中していたが、ひなのふ化後、若鳥も巢内のひなに興味を示し巣へ近づいたため、再度、追い払い・追廻が始まり、特に夕方は激しい追廻が見られたが、事故もなくひなの巣立ちを迎え群れ構成に至った。

現在はAOペア、若鳥474(ときわ)、476(うみ)、幼鳥536、537の計6羽を飼育中である。

なお、9月25日に実施された第13回野生復帰訓練の放鳥では、平成26年、トキふれあいプラザ生まれのNo238(つなぐ)および同プラザで飼育経験のあるNo222(ゆるり)の2羽が初めて佐渡の空へと羽ばたくことが出来ました。

2 利用状況について



3 「トキ野生復帰 2015 シンポジウム」の開催

佐渡では、平成12年度から環境省の「共生と循環の地域社会づくりモデル事業」を実施し、希少な野生生物と地域社会の共生を実現するため、「トキ野生復帰環境再生ビジョン」を定め、本年はその検証年となります。そこで、年間を通じてイベント等に取り組んでおり、11月22日、あいぽーと佐渡を会場に「トキ野生復帰 2015 シンポジウム」を開催しました。会場には島民やトキ保護の関係者240名が来場しました。

シンポジウムでは、これまでのトキ野生復帰の経過についての報告、トキ野生復帰検討会座長の尾崎清明氏や日経BP社の藤田香氏による基調講演のほか、これからの野性復帰の取り組みや可能性などについてパネルディスカッションなどを行いました。



市長あいさつ



パネルディスカッション

関係者報告



4 今後の予定について

12月下旬より、施設の改修・修繕を予定。

工事内容は、ケージ目隠しヨシズの増設・一部張り替え、給水用井戸の点検、配管清掃等を実施。

本作業に伴い12月24日(木)に飼育中のトキ6羽を捕獲し1月5日までの間、退避ケージに収容し作業を実施します。トキの捕獲後、昨年生まれの474(ときわ)、476(うみ)の2羽については、トキ保護センターへ移送・返還する。

トキ収容中はトキふれあいプラザは臨時休館とします。

なお、とき資料展示館は通常通り営業します。



定休日を除くプラザ臨時休館中、トキ資料展示館の環境保全協力費は無料とします。
(定休日：12月から2月までの月曜日(祝日の場合は翌日)および年末年始)